

ケッチさせておいてからお話を聞かせると、形に対する抵抗が少なく、お話を味わいながらイメージ豊かに絵画表現ができるであろう。

五、研究の計画（方法・内容）

- (一) 日常生活の中で、「よい目、よい耳、ものに感じる心」、を育てるために、絵日記の指導を継続する。
- (二) 造形活動の基礎・基本となる表現技法やクローッキーなどのトレーニングをする。
- (三) お話を聞かせる時だけでなく、下絵・彩色の段階でも絵の主たる構成要素となるフクロウやカラスの剝製つばなどを展示する。具体物を見せ、よりリアルな生き生きとした表現になるように配慮する。

六、研究の実際

(一) 指導のねらい

- 1、フクロウが、いつもいばっているカラスをまっ黒に染めてしまうという民話のおもしろさを自分なりに構図を工夫して表現する。
- 2、造形の内容面でのねらい（資料1）

(二) 指導の順序とポイント（資料2）

- 事前調査をして、子どもたちがフクロウとカラスをどれだけ描けるか把握する。この時、人真似ではなく、自分の知っているイメージで表現させることを大切にしたい。（総時数9時間）

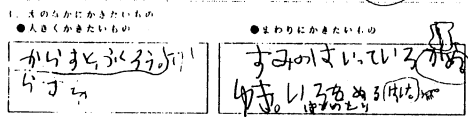
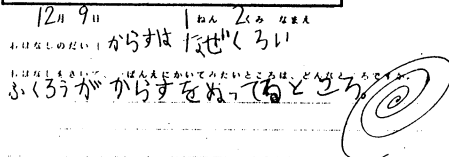
七、研究の成果と今後の課題

- (一) お話を聞かせる前に絵の構成要素になりそうなものをスケッチさせて

順序（分）	指導のポイント
1. 絵の構成要素になりそうなものをスケッチする。（90分）	フクロウやカラスの剝製などからなるものを用意し、子どもたちに描かせる。この時、描く対象と対峙させることが大切である。
2. お話を聞き、自分の主題を決める。さらに描きたい場面のイメージスケッチをする。（45分）	教師の語る民話を聞き、一番絵に描いてみたいところ、主題を内容に決まらせないで、構図を工夫する。学習カードで下半分を、一番絵に描いてみたいところを、描きつづけていく。描きつづけたものに教師が赤ペンで助言する。このカードは、教室に展示して全員が見られるようにする。
3. 学習カードの下絵にボール紙の裏にスケッチをし、お話の内容を深める。（45分）	学習カードを参考にしながら描く。子どもたちが効果的に描くように実態に応じて個別指導をする。雪の降るお話の雰囲気を出すために、絵の具の「白」の発色が美しいボール紙の裏を使う。
4. 色で描きこみ、内容をふくらませて表現する。（180分）	自分の一番描いてみたいお話の場面を思い出しながら、その雰囲気が出るように工夫して彩色する。また、鳥の剝製やかめ、刷毛などを教室に置き、そのものの固有色を大切にしながら色をつけていく。また、絵の具の使用方に十分慣れていないので、基礎から繰り返し指導していく。
5. 全員の作品を鑑賞し、話し合う。（45分）	作品を見ながら、絵を描いている時に楽しかったこと、考えたことなどを中心に話し合う。

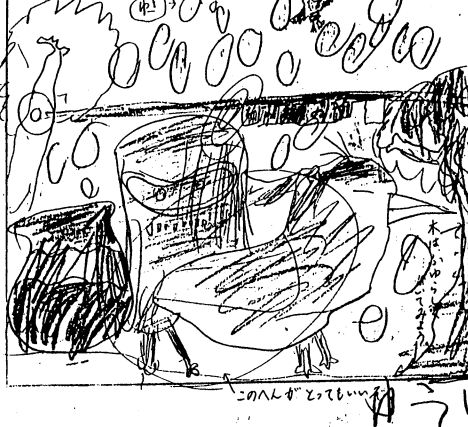
◎資料、子どもが描いたカード

おはなしのえがくしゅうカード



1. ぶんぶんかきたいわら ●まわりかきたいわら

2. ぶんぶんかきたいわら ●まわりかきたいわら



おいたので、描画に対する抵抗感をそれ程持たずにお話を味わいながらイメージスケッチすることができた。

(二) お話の絵学習カードを使って主題意識を明確にさせたことにより、一年生なりにめあてを持って生き生きと表現活動に取り組むことができた。

(三) 話し合いによって絵の構想を練り上げていったので、どの子ども中心になるものを大きく描き、まわりも工夫して描くことができた。

また、今後の課題としてより豊かなイメージの絵になるように学習カードを工夫したり、描材の扱い方に習熟させたりすることなどが課題である。